

中国 5 県休眠預金等活用コンソーシアム

第 19 回 運営委員会 議事録

(1) 日時

2021 年 9 月 15 日 (水) 15 時～17 時

(2) 会場

Zoom オンライン会議

(3) 参加者

① 運営委員

とっとり県民活動活性化センター	毛利葉、小林綾子
ふるさと島根定住財団	森山忍
岡山 NPO センター	石原達也 (代理 西村こころ)
ひろしま NPO センター	松原裕樹
やまぐち県民ネット 2 1	伊藤彰

② 事務局

ひろしま NPO センター	松村渉
---------------	-----

(4) 議題

① 運営委員の交代について

ふるさと鳥根定住財団において、森山運営委員から細田氏への運営委員交代可能性についての報告があり、正式な決定を待って運営委員を交代する旨を共有した。

② 2021 通常枠採択について

2021 年度通常枠について事務局より共有を行った。

1) 主な共有事項

■ 概要

審査結果	内定
分類	草の根活動支援事業 地域（中国）ブロック
事業名	中国 5 県休眠預金等活用事業 2021
団体名	NPO 法人ひろしま NPO センター
内定助成額／申請額	141,100,000 円／141,100,000 円
内定基盤強化支援費／申請額	41,055,000 円／41,055,000 円
内定助成総額／申請額	182,155,000 円／182,155,000 円 (100%)

■ 助成総額内訳

実行団体への助成金	120,000,000 円 (2,000 万円×6 県) +6,000,000 円 (100 万円×6 県)
人件費相当	43,314,840 円
直接事業費当	12,840,160 円

■ 事業のポイント

香川県追加（岡山 NPO センターにおいて担当）

中国 5 県の市町支援センター巻き込み

■ 審査コメント

各県の状況把握による事業計画を 5 県の協働で進めていただいております。県内組織との関係強化、複数テーマへのアプローチ、事業の推進、実行団体への支援力、協働で進める力が強化されていると感じます。

今後、他地域への協働モデルになり得るものと考えられます。（成果の見える化が最重要課題）

今回、5 県に加えて香川県もコンソーシアムに参画されるなど中国 5 県コンソーシアムも新たなフェーズを迎えていると理解しました。すでに過年度において複数事業が展開している現状もあり、中国 5 県コンソーシアムの将来的な役割の再整理なども含めてこの形態での申請についても一つの区切りを迎えているのではないかと思料、今後のあり方等についても並行して検討をいただきたいところです。（来年

度以降の方針)

■ 担当 PO：石田さん (2019PO)

2) 今後の進め方について

小林評価アドバイザー就任に伴い、当コンソ評価計画等のグランドデザインブラッシュアップを 9-10 月において実施することから、以下のスケジュール感を共有した。

- 9-10 月：計画ブラッシュアップ
- 11 月：資金提供契約
- 12-1 月：公募要領の作成、事前評価
- 1-3 月：公募、審査、選考

③ 2022 年度以降の方針について

2019 通常枠から 3 期連続での採択を目指した第 1 期戦略を想定通り達成できたことと、2020 通常枠審査コメントを踏まえ、2022 年度以降に向けた方針について意見交換を行った。

(主な意見)

- 横に広げる (中国 5 県から中四国 9 県等、全国域に広げる、ノウハウを提供する)
- 面から集中へ (5 県バラバラではなく共通テーマを定め、社会的インパクトを創出する)
- 災害枠についても検討したい
- 多発する災害に対して中間支援組織としてどのように対応してゆくのか、災害時における協働連携に踏み込んでいく
- 中国地方で災害に備えるための仕組みづくり、発災時にエキスパートとして動ける NPO の支援・育成、行政へのアドバイザー確保・育成、長期避難所運営やブルーシート張りなど復旧復興の前フェーズに対応できる体制づくり
- 現在のコンソ構成団体内でも災害対応については役割やできる事などが異なるため、その辺りの調整が必用
- 瀬戸内海の歴史建築物について、行政からも補助や支援がなくなり、手放して駐車場になるなど、中国地方の文化をまもる
- 中国地方らしい景観を維持、それが仕事や観光、まちの誇りに繋がり、持続可能な地域を実現する
- 尾道、鞆、倉吉等々、ニーズはきいている
- 現状では共通テーマを設けることは難しい感覚
- 新たなテーマを立てた際に、実行団体がいるかどうか難しい
- 現状実施しているバラエティ型は共通成果を見せるのが難しいが、コンソが連続して採択されることにより積み重ねていくアプローチは良いと感じる
- これからは各県の成果をシェアしていくことにより注力する
- 共通テーマについては、自分の件に実施できる団体があるかどうか、他県と足並みをそろえられるか

など不安がある

- 一方で、地域に必要でまだないもの（コミュ財、災害対応できる NPO 等）を新たに作るという目線では価値があると思う。
- 例えば岡山で実施したテーマと同じテーマで伴走支援を行う他県に対して、岡山の知見や経験を共有すると同時に他県のキックオフを兼ねるフォーラムを開催するなど、知見の共有をより推進する
- 休眠預金法の見直しが図られることから、その情報を収集し、休眠預金の次のステージに備える
- 全国的に視野を広げ、休眠空白県を視野に入れる
- 共通テーマや成果などワンフレーズに集中する。課題を掘り下げることで地域やテーマを越えて有機的につながる共通項を再検討する
- テーマを共通する視点だけではなく、アウトカムを共通させる視点も検討
- 5 県共通テーマになると、各県の事情（分野の成熟、実行団体の存在 等）によっては実施が難しくなる
- 1 つの事業だけではなく複数事業を進めることもあって良い

2022 年度以降の方針については日程を改めて議論することとした

コロナの状況次第ではあるが、可能な限り直接会って集中して実施する方針とした
事務局（ひろしま NPO センター）において日程等の調整を行うこととした

④ 成果の見える化について

評価アドバイザーに小林立明氏が就任されたことで、改めて各事業の評価見直し（中間評価）を行い、当コンソのグランドデザインを作成する旨が事務局から提案され、承認された

特にコロナ枠 2 事業が本年度で終了することから、今月からは評価等について特に注力して事業を進めることとした

（スケジュール感）

9 月 評価アドバイザー 小林立明先生の就任

9-10 月 全事業の評価ブラッシュアップ

11-12 月 ブラッシュアップ計画に沿った、実績の整理（2021 通常枠資金提供契約）

1-2 月 実績整理の評価＝コンソ評価&報告書（コロナ枠 事業報告）

⑤ その他

人件費単価の見直しについて意見交換を行ったが、各組織の状況についていったん整理が必用とのことから見送りとした

事務局より人件費単価についての説明を以下の通り行った

コンソ運営委員会において単価を定めることができる

コンソ共通単価ではなく、各構成団体の賃金規程による単価設定も可能

(5) 資料等

- 資料1 コンソーシアム協定書
- 資料2 2021 内定通知書
- 資料3 2021 資金計画書
- 資料4 2021 申請特別紙事業計画書

以上で議事のすべてを終了し、17:00 に閉会した。

以上の議決を明確にするために本議事録を作成し、運営委員がこれに押印する。

2021年9月16日

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム

運営委員長	松原裕樹	
運営委員	毛利葉	
運営委員	森山忍	
運営委員	石原達也	
運営委員	伊藤彰	